

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

に優越する公権力として承認されており、構成国の批准を経ることなく直接に市民に効力を及ぼす法律の制定すら行うことができる。それはEC法という旧来の常識を越える新しい法領域を形成しつつある。経済政策の領域では、従来からの共同農業政策に加えて、1970年代以降通貨統合や福祉政策などへ展開を示し、構成国の諸国民経済を単一の国民経済へ統合する息の長い実験という性格を示し始めているのである。このように述べれば、ECが豊饒な研究対象たりうることが理解されよう。

ECの活動を規定するEC法は、共同体の全体利害を代表するEC委員会によって提案され、欧州議会での諮問を経た後に、構成国の大臣による議決機関＝理事会で決定される。今般設置されるEDCにはこの決定過程をフォローするために必要な資料はすべて含まれている。すなわち—

1. COM DOCUMENTS (EC委員会の提案の原文) 2. COMMITTEE REPORTS OF THE EUROPEAN PARLIAMENT (議会委員会制をとる欧州議会の各委員会の諮問報告) 3. OFFICIAL JOURNAL (決定された法令およびそれ以

外の勧告・報告等を含むECの官報)

以上のほかに、4. EUROPEAN ECONOMY (EC委員会によるEC経済の定期的分析や関係論文を含む雑誌。速報である Supplement が付く)、5. GREENEUROPE、6. AGRICULTURAL MARKETS (共同農業政策の資料)、7. EC統計局 (Eurostat) の発行する一般統計・国民経済計算・国際収支・貿易などの統計類、更に 8. 様々の説明書、条約テキスト、パンフレット類を含んでいる。

これらの資料が年々蓄積されていくので、経済学、政治学、法学を中心に本学の研究・教育への貢献が期待できようし、附属図書館の規定の範囲内で学外者へも開放されるから東北地方でECに関心を持つ人々にも歓迎されるであろう。

今までの研究経過もあって筆者がEDCの本学設置を附属図書館に働きかけることになったが、図書館長・文系四学部長および幾人かの教官の積極的な支持のおかげで、ただ一度の申請でEC委員会の承認を受けることができた。これらの方々に御礼申し上げるとともに、EDCが積極的に活用されるよう希望している。

東北大学 EC 資料センターの 開設について

本学EC資料センター (EDC) が開設されました。昨年末に承認されたということで、資料の受入・整理・検索方法等については検討中ですが、これまでに届いた資料の受付け状況からみて、予想を上まわる量となっています。このため他大学等のEDCにおける整理方法等を参考にし、早急に利用に供する体制を整えたいと考えています。

本学に送られる資料の言語は、主として英語です。又、Eurostat (EC統計局) の出版物は、次の四部門です。

1. General statistics.
2. National accounts, finances and balances of payment.
3. Agriculture, forestry and fisheries.
4. Foreign trade.

EC資料は、国連資料、OECD資料とともに、研究閲覧室に配架され、逐次刊行物掛(内線2418)が担当します。

昭和58年度附属図書館総合研修会 —細谷新治教授講演—

標記研修会が、昭和58年11月24日(木)午後2時から、本館大AV室を会場として行なわれた。

講師・千葉商科大学細谷新治教授による「西洋書誌学入門」の演題の2時間有余におよぶ講演は、書誌学の原点ともなる西洋の文献（批判）学の紹介から、近・現代における国内・国外の社会科学の文庫にもわたり、用意された歴大な資料とあいまって、内容豊富なものであった。特に社会科学部門の書誌に力点をおかれた、館蔵の櫛田文庫にもふれる、大正・昭和期のわが国の特殊文庫

の解題は、歴史の一断面を書誌学に託して述べられるかの如くで、興味があるものであった。

ブックマンを自認される講師のユーモアをまじえた講話もおりまぜられ、予定時間をうわまわる楽しい研修会であったが、終始熱意に溢れたご講義をいただいたことに、この紙面からも、改めて感謝の意を表する次第である。

図書館業務機械化検討の状況（2）

昭和58年11月～昭和59年1月

附属図書館業務の機械化を推進するため各業務毎に設けられたワーキンググループ（以下「WG」と略記）等における検討会および図書館業務機械化に関する掛長等懇談会の状況は以下の通り。

雑誌業務WG：第11回（11/22）～第12回（12/6）現行雑誌業務の業務分析（つづき）第13回（12/27）TOOL-ULPによる東北大学所蔵学術雑誌の個別版、部局版の出力について、第14回（1/11）～第15回（1/25）雑誌サブシステムの適用業務の範囲について。

受入業務WG：8回（11/4）～第9回（11/17）現行受入業務の業務分析、第10回（12/2）図書受入業務量について、第11回（12/15）図書館業務の機械化に関する調査報告（昭和53年）の再検討について、第12回（1/12）図書選定業務の流れについて、受入サブシステムの適用業務の範囲について、第13回（1/26）受入サブシステムの構成図、機械化の目的と効果及び図書コード等について。

目録業務WG：第9回（11/2）LC-MARCの概要について、学術情報センターシステム目録システム部会中間報告の概要について、第10回（11/14）

和漢書目録掛業務の業務分析、第11回（12/1）～第12回（12/14）洋書目録掛業務の業務分析、第13回（1/11）～第14回（1/19）目録サブシステムの構成図（目録業務機械化適用業務の範囲）について、第15回（1/25）目録業務機械化の目的及び効果について。

閲覧業務WG：第9回（11/10）現行閲覧業務の業務分析（開架カウンター）について、第10回（11/30）同上（メインカウンター）について、第11回（12/8）閲覧業務の機械化適用業務の範囲について、第12回（12/15）閲覧サブシステムの構成図について及び利用者IDコード（学生）について、第13回（1/12）～第14回（1/26）利用者IDコード（教職員）及びまとめについて。

WG連絡会：第3回（11/28）各WGの検討状況の報告について、第4回（12/13）図書館業務機械化計画書の構成案について。

図書館業務機械化に関する掛長等懇談会：第4回（1/31）雑誌業務機械化の概要について、TOOL-ULPによる検索と出力例について。

本館第四代司書官 重久篤太郎先生を憶う

元文学部助教授 矢 島 玄 亮

小宮館長が就任してまもなく司書官八木沼源八氏が辞任したので、暫くの間司書官は空席の儘であったから館員の間に、色々の憶測が流れた。仕事は、じっくりみつめ改善すべきところは改善し、全員協調相和し、分館などとも仲よく付合っ
てゆくもの、として招聘されたのが重久先生であった。先生は着任に先立ち京阪の大学図書館人司書らから本館の事情、取分け職員について聞き調べて来られたようである。しかし図書館の業務については未経験といってよいようであった。書庫で図書の整頓をしていた私の傍に付纏うように何時迄も見守り熱心に質疑したりした。その際、立命館大図書館のA司書の話、彼からの話などを洩した。当時はまだ図書館学などなかったが、館界の趨勢として関西特に京都の大学図書館青年連盟が牛耳って、東大図書館を中心とする関東のそれと相拮抗する様相を示していたが、各面において関西方が一步抽んでていたようであった。こうした情勢をみてきた先生は館員の研修にも力をいれ、いつか私は請われるままに釈家著録法について、少々駄弁ったことがある。しかし、これきりで以後は何の研修もまた館規等の改廃も行われなかった。ただ本館の特殊小形カードが統制に入っ
ては調達困難になるのではと心配された。

16年12月8日、閲覧業務従事中の私の処に来て、只今日米開戦の大詔が発せられたと緊張した面持で告げられた。いよいよ戦時体制に入った。本部の防衛計画大綱に準じて本館でも実施細則が定められ、書庫は書庫係でとなり、地下室南側溝の板の上に土嚢を積んで塞いだり、書庫の窓から電灯の洩れないようにしたのはその頃であった。

学生の軍事訓練召集も次第に激しくなり、本館北側理学部境内芝生では毎日のように折敷訓練、初めはO大佐一人であったが、後には法経文各学科一人宛の大佐が配属強化された。従って、学生の閲覧は日に日に減じていったが、たとえ一人でも閲覧がある間は閲覧室は開くとの館長の意向で開館は続けた。本館でも永年勤続の表彰をうけたF氏が辞任渡満、E氏は東大図書館へ転出した。又徴用者も多く集った。本学女子学生は閲覧用図書カードの複製を行い、学院の学生も多く見え、閲覧事務に携る者が多かった。その頃、布哇引揚の二世というタイピストが特高から脱まれ、しばしば処分を迫られたが、受流していたのが一苦勞であったと後日語られた。従って蔵書についても締付が強化され、地図・統計書等はもちろん敵性図書は官報に掲載され、その都度処置が指示され、理学部N講師の研究室に赴き地図地質図統計書等に閲覧禁止のラベルを貼布、書庫分は同様に処置して地下室に別置した。一年位たって文学部K教授から研究に支障が生ずるとの申出で特別閲覧許可という規程を急設したがこれはこれきりで終わった。(敗戦後にはこれら禁止図書はGHQの命により解除され、今度は新たに禁止書が公表されて、その処置、束の間の転変であった)。また、講座派とか労農派とかで、経済学や政治学のID教授、女子学生の検挙が続く。よって櫛田文庫は東3階の1室に匿し、危うく没収の難を免れた、
というのは、特高の入庫検索があり、後マルクス原書が没収されたのであった(敗戦後返還)。勤労働員学生のため、その職場への図書貸出が決められ、急に規程を作り実施した。苦竹の陸軍工場

にその様子を先生と共に視察に行った事もあったが、戦争末期には殆んど利用されなかった。愈々疎開の時がきた。まず西藏大蔵経である。遠野市が選ばれたのは当地出身のX司書の口添えでもあったのか。防空頭巾国民服食糧携帯で実に不安な汽車に揺られ乍ら先生に同行した。結局、此処は取止めになったが、後宗教研究室で国史科学生の実家大衡村へ蔵内を、蔵外は宮城町落合のG家倉庫に疎開した。本館蔵書の疎開というので責任上私に監視を命ぜられたのであるが、前には行きかねたが、後には助手らと同行した。一方、一般の蔵書は書庫で守る方針を定め、国宝は金庫に入れ地下室に、別置本だけ古川郊外S家倉庫に疎開した。此際は小使2人と私だけが当り、敗戦後の引き取りも同面々であった。敗戦そして終戦、当市にも米軍進駐、教育改革に熱心な米教育局は屢本館を視察し、図書館人の来往が始り、錦絵等の閲覧希望者もみえ始めた。22年、本館で東北地区大学高専図書館実務講習会が催されることとなり、その準備の為、私は命を服んで盛岡高農図書館を訪れた。1月下旬、まだ戦時中の服装で食糧携帯、何時停止するか知れない、且超々満員の汽車に揉まれ揉まれて命がけの出張であった。秋田方面へはB氏が行きそびれて、この方面の受講者は少なめであったが、講習は盛会裡に終わった。全国

館界のトップを切っての開催で、先生の企画によるものであった。尋いで、9月には東北地方では只1ヶ所本館に教育課程文庫（米国教育文庫）が文部省の委託によって開設された。これも本館の活動が認められたからであろう。

24年度からは新制大学となるので、図書館の諸規定も変更せねばならぬ。其際の図書貸出冊数、期間につき教官の間で熱心に討議された。永年の研究費によって蓄積した図書を包摂校教官に自由に貸出されては研究に支障が生ずるというのである。これをうけて、図書貸付規定や図書館商議会規定（仮称）等の草案作成を命ぜられ、1月10日には素案を提出した。然し、先生は7月に退官され沙汰やみとなった。

先生は来任前、既に日本英文学史という高著を著し、また同人誌や文芸誌にも関係し、広く学会に知人が多かったようである。且氣宇壮大よく人の言をきき、よく人を容れた。図書館のというよりはわが国未曾有の国難・敗戦という時期に、あの時を生きた人誰もが各々であるが先生の心労は多分であったろう。

いま乞われる儘に、もはや30数年前の恍惚の中から前後の境もなく羅列した。当時が偲ばれて、万感交に尽きることがない。

先生さようなら。

昭和58年度文部省指定高額外国図書の決定について

昭和58年度図書資料（大型コレクション）収書計画として U. S. Congressional Publications Serial Set, Pt. 6-9, 1903-1934 年、マイクロフィッシュ約4万枚と索引（米国連邦議会・委員会刊行「諸種報告書・文書総集成」）を文部省に対して申請していたところ、この度、予算化が認められ購入決定をしたのでお知らせいたします。

この資料は、昭和57年度の同予算で購入した U. S. Congressional Publications, 1970-1981年、Microfiche and Index. (Complete Collection) の前の部分であり残りの1934-1969年分についても何等かの形で購入することが必要である。

なお、今回決定した資料は2月末日に入荷した。

昭和57年度・中央図書館利用状況の概要（2）

注：昭和57年度は紙面の都合で2回に分けて掲載いたしましたので、
前号（Vol. 8, No. 3, p. 6～7）も参照願います。

5 文献複写実績

	件数	枚数	金額
学内	1,056 ^件 [1,323]	15,417 ^枚 [20,755]	650,125 ^円 [875,745]
学外	1,351 [1,551]	46,639 [43,945]	2,385,145 [2,273,082]
計	2,407 [2,874]	62,056 [64,700]	3,035,270 [3,148,827]

② 学外の件数・枚数・金額には、国立大学等図書館間相互における文献複写の依頼分（私費）を含むが、受付分は含まない。

6 レファレンス応答件数

区分	身分	教官	院生・学生	図書室	事務職員	その他	計
学内	人文・社会科学系	226 [269]	1,003 [1,455]	14 [20]	166 [✓]	/	3,706 (△150) [4,667]
	自然科学系（研究所を含む）	915 [1,311]	1,001 [1,379]	231 [233]			
学外		/	/	/	/	1,324 [1,220]	1,324 [1,220]
計		1,141 [1,580]	2,004 [2,834]	245 [253]	166 [✓]	1,324 [1,220]	5,030 (△150) [5,887]

② △印は教養部教官分で内数

6.i 質問内容別比率

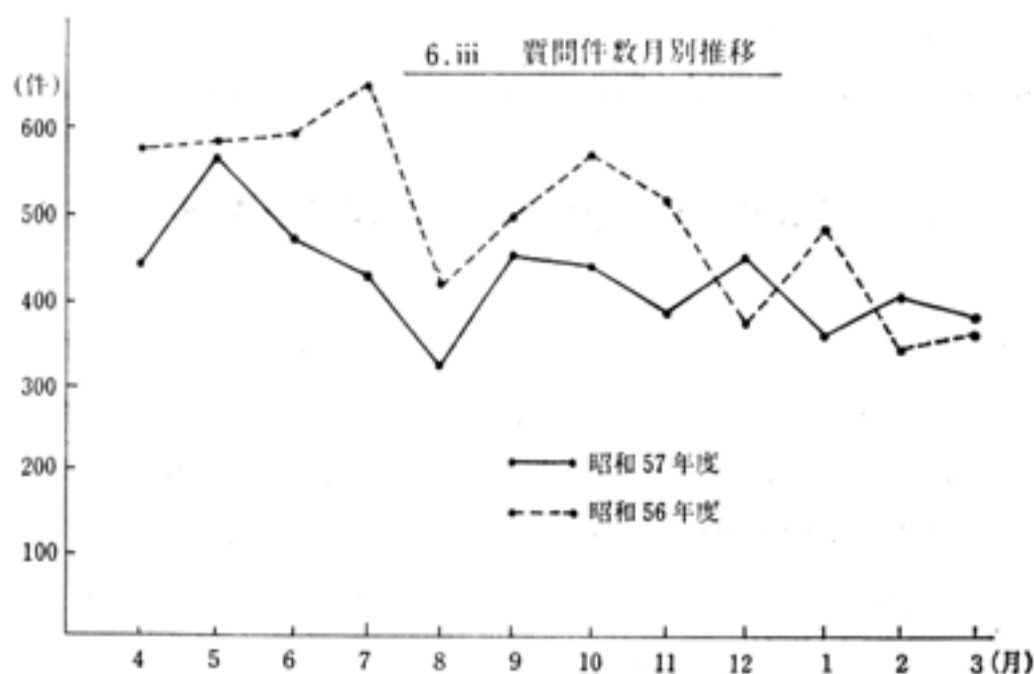


A：文献所在調査
B：書誌事項確認
C：利用指導

6.ii 質問手段別比率



6.iii 質問件数月別推移



昭和58年度上半期文献複写実績

国立大学等図書館間で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和58年度上半期（4月～9月）分実績は下記のとおりです。

区分 図書館名	受 付		依 頼	
	件 数	金 額	件 数	金 額
中 央 図 書 館	505 ^件 (195)	553,180 ^円 (200,580)	132 ^件 (257)	280,688 ^円 (330,382)
医 学 分 館	839 (479)	385,615 (207,825)	69 (201)	28,910 (79,230)
北 青 葉 山 分 館	484 (77)	388,443 (56,240)	131 (53)	78,625 (28,620)
工 学 分 館	344 (23)	195,750 (8,300)	84 (9)	43,605 (4,645)
農 学 分 館	171 (42)	68,765 (16,550)	45 (56)	16,925 (25,020)
合 計	2,343 (816)	1,591,753 (489,495)	461 (576)	448,753 (467,897)

(注) 表中の（ ）内は私費で外数を示す。

昭和58年度上半期（4月～9月）分文献複写受付および依頼国立大学図書館別実績は下記のとおりです。

区分 図書館名	受 付		区分 図書館名	依 頼	
	件 数	金 額		件 数	金 額
岩 手 大 図	132 ^件 (4)	106,880 ^円 (2,775)	東 大 図	32 ^件 (62)	102,988 ^円 (100,892)
新 潟 大 図	34 (16)	32,770 (9,110)	一 橋 大 図	4 (29)	3,305 (48,355)
北 大 図	19 (9)	33,575 (6,915)	京 大 図	8 (22)	8,560 (54,420)
秋 田 大 図	28	14,210	筑 波 大 図	19 (5)	5,495 (4,365)
北教大旭川分図	8 (13)	6,605 (3,460)	北 大 図	6 (12)	8,150 (14,320)
小 樽 商 大 図	21	39,385	名 大 図	7 (12)	15,565 (16,740)
阪 大 図	9 (11)	18,810 (6,460)	東大教養図	2 (14)	300 (9,420)
北 大 文 図	2 (15)	875 (27,970)	金 沢 大 図	5 (7)	8,140 (6,535)
信 州 大 図	7 (9)	2,880 (3,895)	岩 手 大 図	4 (6)	1,585 (3,355)
九 大 図	8 (8)	4,290 (23,140)	九 大 図	2 (7)	96,065 (11,255)
そ の 他	237 (110)	292,900 (116,855)	そ の 他	43 (81)	30,535 (60,725)

(注) 表中の（ ）内は私費で外数を示す。

中央図書館受付および依頼件数の多い上位10の国立大学図書館を掲げた。

東 北 大 学 記 念 資 料 室 だ よ り

○ 例年のとおり、本室が停年退官教官に寄贈する個人ごとの記念写真の作製と、希望される方々の個人ごとの著作目録の作製とが、相平行して進行中である。去年の暮12月3日に御案内状を送付し、色々と連絡をとりながら、1月下旬までに写真の撮影と、著作目録原稿の到着、割付け、印刷所送りが完了した。現在2月中旬、初校の出るのを鶴首して待つところである。このところ年々該当者が増加し、記念写真が28名、著作目録が25名に達している。先生方の多くは記念資料室の役割を理解して下さり、次々と自著論文別刷を集成、製本したものや、単行本を本室に寄贈して下さい。ありがたく感謝している。

○ 東北大学無名会
懐古展 河北新報社
が主催し、本学と宮
城県・仙台市の両教
育委員会および東北
放送が後援した標記
の会は、1月25日～
29日、仙台三越にお
いて開催され、毎日
1,000人をこえる来
観者をあつめ大変な
盛況であった。

詳細については新
聞その他に譲るが、
熊谷岱藏（医・第7

代総長）、阿部次郎（法文）、小宮豊隆（法文）、
太田正雄（医・木下奎太郎）、原龍三郎（工・非
水研初代所長）、武内義雄（法文）、児島喜久雄
（法文）、勝本正晃（法文）等の諸先生が、おり
おり一堂に会し、絵に俳句に漢詩文に思うさま雅
懐をのべた壮観は、単に仙台の輝かしき日々のあ
とというよりも、近代日本における文人書画の交
わりの最高峯を形成するものであった。唯一の生
存でありこれらを所有され、東京の会に続いて仙
台のこの会に展示を許された勝本正晃名誉教授に
対して、またこの会の実現に万般の努力を払われ
た田原音和教育学部教授に対して、本室としても
深い感謝の意を表したい。熊谷・阿部・小宮・武
内・勝本の諸先生の御家族の方々は御来場にな
り、卒業生の人々と懐しく往時を語合っておられ
た。勝本先生の一層の御健勝を心からお祈りする
ものである。

○ 昨年12月8日、宮城県女子専門学校の同窓生
約10名の方々が本室を訪問され、同校の歴史を編
纂する計画を話し、資料収集その他について協力
を依頼された。本室には昭和40年代のはじめに寄
贈を受けた同校の文書やアルバムの類があるので、
かねてから同窓生の方々が協力して「宮城県
女子専門学校史」を編纂されるとよいと考えてい
た。そこで快く承引し出来るだけの協力をするこ
ととなった。宮城県庁の文書なども使用する必要
があるが、皆さんは大変熱心に取り組んでおられ
るので、充実したものになると思う。



「図書館学研究報告」刊行について

昭和43年、竹内利美図書館長のとき、吉岡幸治郎、矢島玄亮両氏（もと本学図書館員）の生存者叙勲を機として発刊された本館の学術的機関誌「図書館学研究報告」は、毎年1冊づつを刊行して、本昭和58年をもって第16巻に到達した。附属図書館調査研究室が編集の責任を負い多くの本学館員等によびかけて刊行して来た。これには新館

建築設計に関する記事や、新館における新分類表の策定の記事など、図書館界全般に大きな影響を及ぼした論文も収載されて、数少い図書館学の専門誌とみなされている。58年も初秋の頃をメ切として原稿を集め10月末に印刷所に入り、校正を重ねて来たので間もなく刷上って来るものと思われる。

附属図書館の概況

文部省情報図書館課では国公立大学図書館の現状を明らかにするため毎年実態調査を実施している。

この概況はその調査項目の主なものを取りまとめたものである。表1は昭和55～57年度の本学の概況、表2は昭和57年度部局別のそれである。

表 1

区 分		昭和55年度	昭和56年度	昭和57年度
蔵 書	和	1,133,757 冊	1,174,090 冊	1,211,993 冊
	洋	1,073,304	1,112,623	1,156,644
	計	2,207,061	2,286,713	2,368,637
所 蔵 雑 誌 数	和	22,365 種	22,422 種	22,557 種
	洋	28,048	28,527	28,875
	計	50,413	50,949	51,432
年 間 図 書 受 入 数	和	36,304 冊	38,864 冊	37,903 冊
	洋	39,470	39,136	44,100
	計	75,774	78,000	82,003
年 間 雑 誌 受 入 数	和	9,685 種	9,741 種	9,655 種
	洋	11,871	11,753	11,545
	計	21,556	21,494	21,200
象 奉 者 仕 数 対	学 生	12,686 人	12,865 人	13,145 人
	教 官	2,432	2,437	2,438
一 奉 人 仕 当 対 象 者	蔵 書 数 (冊)	146	149	152
	年間図書受入数(冊)	5	5	5
	図書館資料費(千円)	45	48	50
図 書 館 職 員 数	総数	177	172	169
	専任	107	105	101
	臨時	70	67	68
図 書 館 職 員 1 人 当 り 奉 仕 対 象 者 数 (人)		85	89	92
図 書 館 資 料 費 (千円)		683,889	733,896	783,790
大 学 総 経 費 (千円)		46,630,532	51,219,356	52,499,433

表 2

部 局		職員数 ()内は 之員外 職員： 内数	蔵 書 (昭和58. 3. 31 現在)						昭 和 57 年 度 受 入 数						昭 和 57 年 度 経 費				施 設 (昭和58. 5. 1現在)					
			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種 類 数)			図 書 (冊 数)			雑 誌 (種 類 数)			図 書 館 資 料 費				運営費 (職員給 予を除く) (千円)	座席数 (席)	延面積 (㎡)	閲覧室 スペース (㎡)	書 庫 スペース (㎡)	収容可 能冊数 (千冊)
			和	洋	計	和	洋	計	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	和 (うち購入)	洋 (うち購入)	計 (うち購入)	図 書 (千円)	雑 誌 (千円)	その他 (千円)	計 (千円)						
本 館	本 館	67(24)	486,141	242,590	728,731	11,210	11,937	23,147	11,257(9,557)	6,562(5,641)	17,819(15,198)	2,015(546)	1,193(659)	3,208(1,205)	134,013	34,520	4,094	172,627	124,485	948	12,480	3,013	4,426	986
	文	2(1)	132,339	81,036	213,375	666	675	1,341	5,575(4,768)	3,436(2,983)	9,011(7,751)	288(206)	513(454)	801(660)	45,798	8,829	997	55,624	3,843	4	68	15	10	5
	教	2(1)	36,559	22,863	59,422	706	301	1,007	1,294(1,020)	869(673)	2,163(1,693)	580(124)	238(218)	818(342)	11,329	4,607	213	16,149	3,923		67	22	22	12
	法	3	61,381	82,805	144,186	771	576	1,347	1,875(1,598)	3,121(3,080)	4,996(4,678)	523(159)	444(415)	967(574)	43,995	7,544	83	51,622	4,585	33	699	65	444	60
	経	4	125,263	119,724	244,987	1,296	818	2,113	3,082(1,677)	2,329(2,029)	5,411(3,706)	768(118)	427(334)	1,195(452)	32,784	13,462		46,246	4,431	23	259	45	125	28
	農 研	2	20,278	9,147	29,425	383	273	656	782(395)	264(50)	1,046(445)	253(45)	235(71)	488(116)	2,526	3,537		6,063	1,063	10	234	18	188	32
	進 研	2(1)	5,648	11,078	16,726	242	257	499	157(48)	470(136)	627(184)	132(35)	142(100)	274(135)	2,501	5,588		8,089	2,215	16	246	37	144	24
	科 研	2(1)	3,745	11,660	15,405	282	135	417	32(32)	246(245)	278(277)	255(9)	109(64)	364(73)	1,072	5,665		6,737	3,238	20	574	58	375	37
	速 研	2(1)	9,806	13,525	23,331	83	196	279	189(143)	399(212)	588(355)	350(35)	179(108)	529(143)	3,259	5,828		9,087	4,958	12	189	27	140	23
	通 研	2	4,829	11,613	16,442	110	238	348	141(75)	801(158)	942(233)	41(41)	167(166)	208(207)	2,652	10,294	1	12,947	2,947	12	335	59	247	26
	非 水 研	1	4,283	14,485	18,768	78	200	278	122(45)	608(168)	730(213)	47(30)	141(135)	188(165)	4,367	12,760		17,127	1,229	30	430	63	351	24
	応 情 研		445	1,119	1,564	3	41	44	60(60)	25(25)	85(85)	2(2)	10(10)	12(12)	986	365		1,351						
	サイコロソ	2(2)	549	1,486	2,035	4	25	29	48(47)	396(395)	444(442)	16(6)	34(33)	50(39)	1,781	4,078		5,859	6,416	5	98	12	35	6
関 係	大 計	1(1)	1,601	1,341	2,942	28	31	59	56(50)	49(11)	105(61)	19(19)	25(24)	44(43)	314	934	205	1,453	2,316	1	59		46	4
	情 教		155	38	193	8		8	90(90)	33(33)	123(123)	8(8)		8(8)	534	105		639						
	計	92(32)	893,022	624,510	1,517,532	15,869	15,703	31,572	24,760(19,605)	19,608(15,839)	44,368(35,444)	5,297(1,383)	3,857(2,791)	9,154(4,174)	287,911	118,116	5,593	411,620	165,649	1,114	15,738	3,434	6,553	1,267
医 学 分 館		20(9)	106,964	166,300	273,264	1,657	4,288	5,945	4,175(3,487)	5,876(4,941)	10,051(8,428)	1,147(467)	2,513(2,181)	3,660(2,648)	36,198	70,323		106,521	45,894	93	2,681	329	1,737	241
北青葉山分館		23(12)	44,596	182,147	226,743	2,571	5,876	8,447	3,184(1,112)	12,109(1,468)	15,293(2,580)	1,131(190)	2,650(800)	3,781(990)	26,255	70,833		97,088	40,373	247	2,895	658	1,570	281
工 学 分 館		22(10)	107,458	111,136	218,594	1,563	1,541	3,104	3,852(2,217)	4,521(1,677)	8,373(3,894)	1,023(331)	1,215(965)	2,238(1,296)	44,933	60,442	547	105,982	33,918	433	4,423	1,492	1,008	225
農 学 分 館		6(2)	45,420	32,558	77,978	639	955	1,594	1,782(1,420)	1,069(338)	2,851(1,758)	875(97)	993(339)	1,868(436)	10,943	19,777		30,720	9,037	116	1,279	326	418	75
全 研		6(3)	14,533	39,993	54,526	258	512	770	150(135)	917(366)	1,067(501)	182(41)	317(224)	499(265)	9,689	21,370	800	31,859	6,248	30	428	28	318	55
総 計		169(68)	1,211,993	1,156,644	2,368,637	22,557	28,875	51,432	37,903(27,976)	44,100(24,629)	82,003(52,605)	9,655(2,509)	11,545(7,300)	21,200(9,809)	415,989	360,861	6,940	783,790	301,119	2,033	27,444	6,267	11,604	2,144

会 議 等

○国立大学図書館協議会理事会等

と き：昭和58年10月14日

ところ：名古屋大学附属図書館

出席者：吉岡館長，谷本事務部長，熊谷整理課長

○図書館業務機械化懇談会（第2回）

と き：昭和58年10月28日

ところ：本館会議室

○昭和58年度国立大学附属図書館事務部長会議

と き：昭和58年11月1日

ところ：新潟大学附属図書館

出席者：谷本事務部長

○外国雑誌センター館会議

と き：昭和58年11月7日

ところ：大阪大学附属図書館

出席者：佐藤医学分館事務長

○第15回国際連合寄託図書館会議

と き：昭和58年11月10～11日

ところ：東京大学総合図書館

出席者：参考調査掛 松井好次

○昭和58年度大学図書館職員講習会

と き：昭和58年11月15～18日

ところ：東京大学総合図書館

受講者：逐次刊行物掛 佐藤義則，電気通信研究所図書掛 鹿島正子

○第4回西洋社会科学古典資料講習会

と き：昭和58年11月16～18日

ところ：一橋大学社会科学古典資料センター

受講者：小野洋書目録掛長

○東北地区大学図書館協議会実務者研修会

と き：昭和58年11月24～25日

ところ：本館会議室等

○東北大学附属図書館総合研修会

と き：昭和58年11月24日

ところ：本館大視聴覚室

○図書館業務機械化懇談会（第3回）

と き：昭和58年11月30日

ところ：本館会議室

○図書館業務機械化懇談会（第4回）

と き：昭和59年1月31日

ところ：本館会議室

○国立大学図書館協議会常務理事会等

と き：昭和59年2月2日～3日

ところ：東京大学総合図書館

出席者：谷本事務部長

人 事 異 動

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
58. 11. 30	閲覧課事務補佐員	鳩 喜 美 子		辞 職
58. 12. 31	総務課 "	杉 山 博 子		"
59. 1. 20		山 内 裕 子	総務課事務補佐員	採 用
"		栗 原 裕 子	閲覧課 "	"
58. 11. 6	工学分館管理掛事務補佐員	田 中 恭 子		辞 職
58. 11. 28	工学部機械工学第二学科図書室事務補佐員	千 葉 浩 子	工学分館事務補佐員	配 置 換

お知らせ

(1) 卒業（修了）及び退職・転勤予定の方へ —貸出図書の返納について—

昭和58年度を以て、卒業（修了）及び退職・転勤等により本学から異動される予定者で、附属図書館（本館・分館）から図書館資料を借用している方は、期限内にすべてご返納ください。返納が遅れますと、他の利用者にたいへん不便をかけることになりますので、よろしくお願いいたします。借用図書の内訳を確認したい場合やその他返納手続等について不明な点がありましたら、本館または分館の該当カウンターに問い合せください。

なお、下記事項には特にご注意ください。

※個人名義で借用された図書をそのまま研究室に残したり、名義の書換えなしに同僚や後輩の方に預けたりせずに、必ず返却の手続をおとりください。

※退官を以て本学の名誉教授になられる方は、引き続き図書の貸出を受けられますが、事務処理上、一旦返納いただいた上で改めて借用手続をおとり願うことになります。

(2) 昭和59年度入館券・貸出券の申込受付について

新入生の入館券登録申請については、入学手続と同時に行っておりますが、在学・在職中の方の申込み及び交付手続は従来通りの方法で行いますので、59年3月をもって有効期限の切れる入館券または貸出券をお持ちの方、新たに登録を希望される方は、図書館カウンターの方に申し込んでください。

申込みは、学生は開架閲覧室カウンター（2階）、教職員・院生はメインカウンターで受け付けます。

(3) 開架閲覧室配架整備作業

毎年、年度末の春季休業時を利用して実施している開架閲覧室の配架整備作業を、今年は下記のとおり実施する予定であります。この期間中は閲覧室を閉室しますので、あらかじめご了承下さるようお願いいたします。なお、その間の返却図書の受付はメインカウンターで行います。

記

実施期間：3月19日（月）～24日（土）

編集後記

今冬は、例年になく、全国的に寒波と大雪に見舞われ、仙台地方でも日中の気温が氷点下という日が4～5日続いたが、その寒さの中にも春の足音がそこまで近づいている感じである。

現在、当館では図書館業務機械化の実施へ向けて昨年より、受入、雑誌、目録、閲覧の各ワーキング・グループが、毎月2回検討会を開いているが、本年3月で一応、第一段階を終了する予定である。

また、医学分館も新築完工し、この6月開館をめざして、移転作業準備中で職員一同張り切って頑張っているとのことである。

当館報「木這子」を発行して10年目を迎えようとしているがその間、原稿を依頼した諸先生方、職員の方には、御多用中のところ快諾して頂き厚く感謝申し上げる次第である。

今後共、内容の充実に努めますので御協力願います。

東北大学附属図書館報「木這子」 第8巻 第4号（通巻第32号）発行日 昭和59年2月29日

編集委員長 千葉龍郎 編集委員 橋本美知子、松元義正、阿部佳市、吉川和幸

発行人 谷本幹男 発行所 東北大学附属図書館 仙台市川内 電話 代表 22-1800 (2408)